

普代村教育振興運動推進協議会

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『 普代村 “きょうしん” 地域活性化研修会 』

～教育振興運動実践組織を活用した防災研修会～

1 地域の教育課題

平成22年度に小学校が統合したことにより、教振の組織の見直しを図る意味からも、改めて基本に立ち返り、5者それぞれの役割を明確にすることで、参加者の自主性を引き出し、更には各実践班において世代間交流を推進し、高校生、地域の人も参加できる組織づくりを進める。

＜課題の裏付けデータ＞

自然体験を通して、自主性や忍耐力、協調性を育むとともに、活動意欲に満ちたリーダーの育成を図る。

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

＜子ども＞

各地域子ども会リーダーが呼びかけを行い、友達を誘い合って参加した。

（小学生 34人・中高生 5人）

＜保護者＞

保護者のリーダーが個々に声がけをした。地域への声がけにより、行政区長さんの参加があった。（参加者 7人）

＜先生＞

県北青少年の家指導員 1人
県北教育事務所 社会教育主事 2人

＜地域＞

行政区長が参加したことで、子ども・保護者の意識向上にもつながった。（参加者 5人）

＜行政＞

教委職員は防災研修会の準備等に関わり、参加者と一緒に取り組んだ。（参加者 9人）

○課題解決のための年間の取組

保護者・地域の方を対象とした研修会等を開催することで、今まで以上に地域を巻き込んだ活動となるようにしたい。（開催回数 年3回）

3 取組の様子

・教育振興運動実践組織を活用した防災研修会
〔体験活動1〕

・テント、かまど設営

参加した5者の協働による体験活動

指導者：県北青少年の家指導員

〔体験活動2〕

・火おこし、湯沸かし体験

参加した5者の協働による体験活動

指導者：県北青少年の家指導員

〔熟議・ワークショップ〕

・災害発生時の5者の役割と防災避難マップの作成・・・各テント内

・「安全・安心マップをつくろう」あなたの避難場所は？

指導者：県北教育事務所 社会教育主事

〔体験活動3〕

・テント、かまど撤収

※体験活動1・2・3は参加者を6班に分け、各班毎に小中高生を配置したことにより、手際よく協調性が図られていた。また、防災避難マップの作成は、各自の家を中心とした地域の避難場所までの経路と、地域の中の危険な箇所についても再認識できた。事務所の先生方の指導により短時間で完成することができた。

外での体験活動ということもあって参加した子ども達、小中高生が一緒になって楽しむことができた研修会だった。

4 課題解決を判断する評価の方法

・教育振興運動とは何か？

自分たちが進める教育振興運動であるという意識をもち、5者の役割を認識し、積極的に推進していくことが必要である。

また、地域の施設等を利用し、地域の中から指導者を育てていくことで、人材発掘にもつながっていきいたい。

・今後は、地域が今まで以上に関わりを持てるような活動を展開していくために、周知方法の仕方にも工夫が必要である。